

## 会 議 録

|             |                                                                         |                                                                                                                   |       |       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| 会議の名称       |                                                                         | 第3回（仮称）中根金田台地区小学校開校準備委員会                                                                                          |       |       |
| 開催日時        |                                                                         | 令和6年12月12日（木） 開会 16：30 閉会 18：00                                                                                   |       |       |
| 開催場所        |                                                                         | 栗原交流センター                                                                                                          |       |       |
| 事務局（担当課）    |                                                                         | 教育局 学務課                                                                                                           |       |       |
| 出席者         | 委員                                                                      | 渡辺 オリエ、海老原 仁美、鶴田 真希、大崎 純一、<br>三石 祐季、岡部 智恵、大畠 ひろ美、荒巻 翔(代理)、<br>飯塚 ちはる、田原 道崇(代理)、山内 寛子、関 美智子、<br>佐伯 鉄夫、三輪 俊一、小林 真理子 |       |       |
|             | 事務局                                                                     | 学務課課長 笹本 昌伸、学務課課長補佐 川又 文江<br>学務課係長 大友 博幸 学務課主査 菅原 理恵<br>学務課主査 渡邊 美樹                                               |       |       |
| 公開・非公開の別    |                                                                         | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開                 | 傍聴者数  | 0人    |
| 非公開の場合はその理由 |                                                                         |                                                                                                                   |       |       |
| 議題          |                                                                         | 1 校名案の選定について<br>2 校章案の選定方法について                                                                                    |       |       |
| 会議録署名人      |                                                                         |                                                                                                                   | 確定年月日 | 年 月 日 |
| 会議次第        | 1 開 会<br>2 議事<br>(1) 校名案の選定について<br>(2) 校章案の選定方法について<br>(3) その他<br>3 閉 会 |                                                                                                                   |       |       |

## ＜審議内容＞

### 1 開会

事務局：定刻となりましたので、それではこれより第3回（仮称）中根・金田台小学校の開校準備委員会を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。次第に入ります前に、一つお願いがございます。本日の委員会の方は、AIによる議事の文字起こしを自動で行うシステムの方を使用しております。このため大変お手数ですが、ご発言の際は、はじめにお名前の方をおっしゃっていただきますようお願いいたします。

### 2 議事

事務局：それではこれより議事の方に入りたいと思います。議事の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：では皆様、本日もどうぞよろしくお願いいたします。本日傍聴の方はいらっしゃいません。まず(1)校名案の選定について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：事務局です。まず、校名案アンケートの結果についてご説明いたします。

アンケートの概要については、11月19日から12月1日の期間で、栗原小学校、栄小学校、九重小学校の児童、保護者、3校の通学区域内にお住まいの方を対象に、児童はアンケート用紙、保護者や地域の方は電子申請から御回答いただきました。児童・保護者宛には各学校から御案内していただき、地域の方には、栗原交流センター、桜交流センター、桜体育館、桜窓口センター、桜保健センターにチラシを掲示しました。

アンケート結果について、回答者の内訳は、3校の児童からは755件、保護者や地域の方からは219件の回答がありました。

回答結果の表について、左から児童の回答数、保護者・地域の方の回答数、その合計、得票率、読み方が同じものを合算した数及び合算した得票率となります。合計数は、「さくら」が171票、「桜」が204票、「春風台」が333票、「さくらの森」が200票、「さくらの杜」が66票となりました。

以上のアンケート結果を基に、校名案の最終選定をお願いいたします。

委員：事務局に質問なんですけれども、桜中学校の人数が増えた場合に、同じ地区、同じ場所に中学校の方を作るというような話があったかと思うんですけれども、その際は今の桜中学校を分離してというかたちなのか、それとも全く別の新しい校舎として桜中学校として新築するのか、どちらを検討しているのでしょうか。

事務局：あくまで現状としてですけれども、桜中学校が歴史的文化地区にあたる関係で、建て替えは難しいという状況なので、基本的には桜中学校が移転することになるかと思います。

ただ、時期的なものとか、そういったところについて、詳細な計画はまだ出てきているものではないです。方針としては、そのような移転というかたちで検討を進めていくことになるかと思います。

委員：もし移った場合にね、今市内の学校とかでも、併設の場合には、小学校と中学校で同じ校名を使ってるケースが多いので、それをちょっと確認させていただきました。

事務局：今回は桜中学校が移転しますが、小中一貫校というわけではなく、あ

くまで栄小、九重小、栗原小が1つの小学校に集まってくるというかたちになります。

委員長：それでは、委員からあった内容も踏まえた上で、校名を協議したいと思います。

委員：この結果を見ると、個別では春風台小学校が多い中で、ひらがなと漢字全ての表記を含めると桜が多くなっているので、合算で見てもいいのではないかなと私は思うんですが。

委員長：今、合算で見えて決めるという御意見がありましたが、皆さんはどうでしょうか。

委員：合算する場合、”さくら”はひらがなってことですかね。その場合、桜学園の桜は漢字表記ですよ。それに、桜中学校も漢字ですよ。新設校のさくらだけは違うってことになりますね。

委員長：そうですね。表記についても決めていかないといけないですが、ひらがなのさくらだと、小学校だけは表記が違うというかたちになりますね。

委員：みどりの南は何パターンかあった中で、文字の違いがあつたりとか、それに対してどういうプロセスで選ばれたとか、例えばその5つ選んだ中で一番得票率が高かったものがあつたりとか、そのあたりはどうだったんでしょうか。

事務局：詳細な得票率までは今ちょっとわからないんですけど、みどりの南の時は、「みどりの南」という名称が表記も含めて圧倒的に票が多かったので、

かなりスムーズに決まったという状況ではありましたが、今回はかなり競っているなというのを感じているところです。

委員長：仮称名が「みどりの南」だったので、そのイメージが強かったのかもかもしれませんね。

事務局：研究学園の時も、地域名が仮称になっていて、研究学園小学校・研究学園中学校であったので、その仮称が一番得票数が多く、そのまま決まったというようなかたちだったと思います。

委員：いくつか候補を選ぶ前に、色々な校名が挙がった中で、子どもは楽しそうなイメージとして、ぴかぴかとか、自分たちが楽しく通える学校名を一生懸命考えたと思います。そういった経緯を考えて、児童の中では「春風台」がトップなので、それがいいのではないかなと思います。

委員長：他の委員の皆様のご判断はどうでしょうか。どうしてもこの場で決まらないということになれば、再度アンケートを実施するという案も事務局からいただいているのですが、校章デザインの公募を、冬休みの宿題として、親御さんに相談しながら子ども達に考えてもらえるように実施したいと考えているので、そうなるとかなり期間的には短い中で二回目の校名アンケートを実施することになるかと思いますが、回答数にも影響があるかも知れませんが、そのあたりも考慮しながら決めていきたいと思います。

委員：正直なところ、春風台に住んでいる人は春風台がいいと思うし、テクノパークのあたりもですかね、そのあたりに住む人は桜がいいと思うし、さくらの森に住む人はさくらの森がいいと思うんです。

そうするとそこに住む人の人数によって決まっちゃうので、住む人の割合がどう変遷していくのかというか、今後流星台とか増えていくイメージがあるので、それだと流星台に住む人が多いのに「春風台」って校名だとちょっと違和感がある小学生もいるのかなと思う部分があるので、そういった地域の児童数の推移を考えて決めた方がいいんじゃないかなと思います。みどりの南は、地域としてとても大きかったんじゃないかなと思うんです。それでいくと、今回「春風台」に決めてしまうのはどうなのかなと思います。

委員：私は、住所は春風台になると思うんですが、さくらの森とか地域名ではなくて、やはり、さくら小学校が一番しっくりくるというか適切ではないのかなとは、思います。

桜も漢字ではなくて、ひらがなのさくら小学校の方が、児童数として票は少ないですけど、一年生でも簡単に書ける、習ってすぐ書ける、親しみのある「さくら」が一番いいのかなと思いますし、選定方法というか、由来が地域住民の方にもすごく納得というか、「栄」の「さ」とか、そういうところがいちばんしっくりくるし、地域住民の方にも理解を得やすいので、漢字の桜だとやはり他もたくさん出てくる名前ですし、ひらがなのさくらが一番しっくりくるのではないかなと思います。

でも、投票数で言ったら 93 人ですし、保護者数は一番高いですけど、「さくら」「桜」の合計が数字的に合わせると、270 前後になると思うので、さくら小学校が桜学園の 3 つの小学校が集まってできたっていうイメージでは、いちばんしっくりくると思ひまして、ひらがなの「さくら」がいいかなと思います。

委員：それぞれの地区に小学校があるということに対して、九重は九重地区にある、栗原は栗原地区にある、栄は栄地区にあるということで、春風台は春風台小学校であれば、それは地名として名前をつけたということで納得できると

思うんですが、一方で、じゃあ春風台は34%、桜がついている名前は66%、その春風台以外から来る人に対して、さくら小だとほかの小学校から桜中に進学するってなったときに、桜中とさくら小がセットですという風になって、他の地区から、他の名前の小学校から進学する子たちがどういう感情を抱くのかを考えた方がいいのかなって思います。

そういうところで、じゃあそれぞれの地区から、違う名前の学校から桜中に集まってというか、そういうところを踏まえて考えた方がいいかなって思います。

委員：小学校、中学校が同じ名前で、他の学校から人が集まるということがあったりするんですか。

事務局：市内でいうと、小中同一の名前の学校でも、吾妻小中のように一小一中の関係となっている学校と、そうではなく、1つの中学校に対して、同名の小学校とそうではない複数の地区内の小学校が集まるというかたちの学校もあります。

委員：私としては、田舎の小学校であれば珍しくないと思うんですよね。  
どうでしょう。それで、同じ小学校同士で友達のグループができるというか、それは別の問題として。名前で括ると友達のグループができるというのもあるかもしれませんが、まあそれは先生方に配慮していただくことですかね。  
なので、私としては、複数の小学校が集まるかたちであっても、小中同じ名前でもいいと思います。

委員：私は単純に多数決でいいかなと思います。  
せっかく5つに分けてアンケートしたんだから一番多いので、その意味がなくなっちゃうと思うので。

委員：私も同意です。

委員：得票率が一番多いのが良いかと思います。一番皆さんに納得していただけるかなと思います。

委員：同じです。

委員：今回の新しい小学校区ではない子も桜中学校に行くということも考えたときに、「さくら」小だと、そこにいた小学校の子たちも一緒になるイメージがあるのでそれはいいなと思いました。

ただ、今回のアンケートの得票率を無視してまで、皆さんの意見を集めたけど、それを超える皆さんが納得するような意見にはならないのかなと思いました。

委員：前回資料の公募結果一覧を見ると、「さくら」が1番、内訳が「さくら」と「桜」が37票、というところで、2つ案が出て、票数がわかれたかたちかと思います。「春風台」は漢字を書ける子たちが書いた「春風台」が58票、小学1年生とか、まだ春風台と漢字で書けない子たちが12票、他にも一部を漢字で書ける子が書いた「春風台」が4票、票数で行くと2番目の校名案かなと思うし、やっぱり書ける書けないというところを踏まえると、やはりひらがなのさくらが一番しっくりくるというか、1年生からでも「春風台」を書いていけるように指導できれば良いと思うが、ちょっと難しいし、開校前にみんなが書けるようにすることを考えるとどうなのかなって話になってしまうかもしれないと思います。

委員：結果を見て難しいと思っています。ただ、春風台が1番票が多いので、投票の結果1番多かったからこの校名に決めたという説明が、子どもにとって



は説得力があるのかなと思います。

委員：協議する中で、1番多かったものではなく、話し合いで決めましょう、ということであれば、得票率ではなく、プロセスを大事にした方が良いと思います。5個だけで見るとたしかに春風台が多いですけど、手法として、多数決をとったときに、一度だけで決めるのではなく、もう一度全く同じ多数決をやるという手法もありますので、もめるのであれば、もう一回アンケートをやるのもひとつの方法かなと思います。それによって、1回目の投票で春風台にしたけれども、2回目の投票でどれにしますかとしたときに、結果が変わってくることもありますし、一番その人たちの意見を吸い上げられる方法がいいと思います。今回話し合いをして決めるとそういった意見を拾いきれないことになるので、一回で決めるのは危険だなと思う部分があります。3つぐらい残して、再度アンケートするのがいいのかな。

委員：私は得票数が多いものに決めていいと思います。個人的な意見なんですけど、桜小は検索するとあまりにも日本にありすぎるんですよね。新しさを感じるのは春風台だなと思います。それに、家庭で話していた時、ある程度桜小という名前は想像がついていて、こうなるかなと思っていたんです。一生懸命考えて、あれだけ票があった中で、最終的にはほとんどさくらか春風台かをきくようなアンケートになってしまったので、結局こうなのかと個人的には少し残念に思う部分があります。

委員：みなさんの色々な意見をきいたんですけど、私はたまたまアンケートをとっているときに、あるクラスにいたんですよね。その時に子ども達が一生懸命考えていたんですよね。あれが良いかな、これが良いかな、どうしようかなと考える子ども達の姿を見ていたので、これに決まったよ、と子どもたちに伝

えるときに、なんでこれに決まったのと聞かれたら、こうだからだよ、と理由がきちんと言えるものがないですね。そうすると、児童で1番多い春風台が、1番多かったんだよね、という話を子どもたちにしたときに、子ども達も、そうよね、というふうになるのかなと思うので、1番得票数の多い春風台が子ども達も納得するのかなと思います。

委員：得票率の多いものが説明しやすいし、いいだろうという話もあると思うんですが、私は、得票率はあくまで参考だと思っていて、それをもとに決めるのは開校準備委員会の中だと思っています。

開校準備委員会の中で、委員のみなさんが子ども達を説得する上で、得票率が良いのではないかとということであれば、それを推すのが一番良いのではないかと思います。

委員：本当に悩むところだなあと思いながら、どちらのご意見もなるほどと思いながら聞いていました。

私自身もちょっと悩みながら考えていまして、どちらにしても、皆様にどういう理由で、こういう校名になりましたっていう、納得感が得られる方法を、今から確認しながら決めていった方がよろしいかと思います。数字的には1、2、3番までのところで、どう結論を出していくかという部分が焦点になっていくのかなと思います。

委員長：すごく悩ましいところですが、開校準備委員会としてこの場で決めていく場合、子ども達の得票率だと「春風台」、合算の得票率や歴史的なことを考えて「桜」と二つにわかれているのかな、ということで、この場でどちらかということを決めるのが難しい場合には、事務局の方から2回目の校名アンケートを実施する方法を提案していただいています。校章募集に入る関係で期間

は短くなると思いますが、事務局から2回目の校名アンケートについてお話しただいてもよろしいですか。

事務局：もし、2回目の校名アンケートをとる場合だと、方法として電子で回答いただくような、Google フォーム等を使うかたちで実施することになるかなと考えています。お話いただいたように、校章案の募集前には校名が決まっていなければならないので、日数としては数日しか取れないのですが、その中で、対象をどうするか、児童だけではなく保護者等に回答いただくのかということと、その結果をどう扱うのか、今回の2回目の校名アンケートでは単純に票数が多かったものにするのかなどを決めていただく必要があります。

委員長：結果をどう扱うかですね。結果を受けて、この開校準備委員会の場でもう一度検討しましょう、という場合と、票数が多く1位と決まったものは校名として決定し、校章募集のほうにうつる、という部分について協議したいと思います。

まずは、二回目のアンケートをとった方がよいかどうか、それとも、この場できめるかどうかについて、いかがでしょうか。3つくらいに絞ってアンケートをとった方が理想かなと思いますので、もし二回目のアンケートをとるとすると、「さくら」を漢字で書くかひらがなで書くか、結果がでた後得票数で決めてしまうのか、と、そういったところをお話いただければと思います。

事務局：あくまで事務局の考えですが、大きく分けると3つに分類してアンケートをとったとすると、また票がわれてしまうことが考えられるので、2つに絞ってアンケートをとるようなかたちがいいのかなと思います。

委員長：私も実は、この合算得票率を見ると、また3つにわれてしまうのかな

と思うので、思い切って2つに絞ってアンケートをとり、子ども達にどちらか決めてもらうのがいいんじゃないかなと思います。

どうでしょうか、他に御意見があれば、お願いします。

委員：” さくら “と” 桜 ” をひとつに絞るのはこの委員会で決めるんでしょうか。

委員長：そうですね、この場で決めていただいてアンケートを実施できればと思うんですが。

委員：私も2回目の校名アンケートは2つに絞って実施するのがいいと思います。ひらがなか漢字のさくら、春風台の2つに絞って決めてもらうのが、子ども達には一番わかりやすいんじゃないかと思います。

委員：アンケートの際、今まで話してきた背景も伝えて実施するのか、それとも文字だけで子どもたちに聞くのか、その辺りはどうなんでしょうか。

事務局：前回のアンケートには名称と由来を載せて用紙をお渡しして、実施しました。2 回目の校名アンケートでどこまで記載して実施するかは、ご要望があればそれにそえると思います。

ただ、今回はあまり時間がとれないので、今までと同じように用紙を配って回収して集計するというのは難しいので、学校でどこかクラスごとで時間をとっていただいて、先生に背景について説明いただいた上で、こちらが作った電子フォームを使って、タブレットで回答していただくといった方法になってしまうかなとは思っています。

委員長：低学年はタブレット端末の操作が難しいので、手を挙げて多数決とい

った方法でもいいかなと思うのですが、もしかすると、お友達が手を挙げているから私も、といった具合に、それぞれの学校とかクラスごとで、アンケートの結果が変わってしまう気がします。

ですので、アンケートの取り方は重要かもしれないですね。各ご家庭で御協力いただくというかたちにしてしまうと、児童数より回答数が少なくなってしまうかね。3人御家族がいる御家庭は、それでも1つの回答しかできないということになりますもんね。

事務局：今のところ Google フォームを活用する方法を検討しているんですが、その場合メールアドレスの登録をしなくても回答できるようなかたちを考えています。そうすると、善意にお任せするかたちになってしまうんです。

一家庭で一票とか、一人一票として、そのルール通りにやってくださいとお願いすることになりますが、実際にチェックはできません。

チェックできるようにするには、メールアドレスの登録が必要になるので、回答へのハードルが上がってしまうことになるので、できれば避けたいと考えています。

委員：TEAMS、あれでアンケートはとれないんでしたっけ。

事務局：事務局でアカウントがないと思うので、Google フォームで検討しているところです。

委員：学校の中の時間内で、全員にやれば一番早いのは早いと思うんですけど、他の方法だとタブレットを持ち帰ってとか。

委員：学校の今の状態としては、あまりにも市や県からのアンケート調査が多

くて、時間が取れないという現状なので、教員に負担をかけたくないという思いがあるので、私個人としては、ご家庭で扱ってもらうか、タブレットは低学年の子は持って帰ったら難しいところもあるので、できれば Google フォームを送ってもらって、そこで回答してもらう、というのが、一番ありがたいかなと思います。

票を何度もは入れないと思うんですけど、入れるというのはそれだけ思いが強いというふうに考えてもらえればいいですかね。

委員：正確な票数のアンケートという意味だと偏りが出てしまうかもしれないですね。

委員：いろいろ決めなきゃいけないことがいっぱいある状況で、またアンケートのフォームを作って、お知らせして、しかも、そこまでしても短い時間でしか集計できなくて、集計しても、重複する方の票があるのかもしれない、とかいろいろ考えると、フォームを作って集計する必要があるのかなと思ってしまいます。

かといって、意見が子どもたちの意見に寄り添うかたちにならないのも心配なので、このまま委員会の中で校名を決めるのも懸念があります。なので、統一して、子どもたちに同じ条件の中でアンケートをとって、回答できるようなかたちができればいいなと思います。

例えば、1枚お便りがあるとして、先生によっては、こういう内容です、というだけで終わりになっちゃうような、理由を言わないで終わっちゃう先生もいると思うので、同じ条件・状況で学校の子どもたちに聞いて、というのがよいと思いました。

委員：給食の時間とかに放送で先生たちにお話してもらって、子ども達に手を

挙げてもらって、数を数えてもらうというのはどうでしょうか。

委員：先生たちが一番楽というか、負担がない方法がいいと思うんですけど、  
どういう方法がいいんでしょうか。

委員：それだと、低学年は少し時間がかかるから大変かもしれないけれど、タブレット端末を使って各生徒が回答するというのが一番負担がないのかなと思います。

委員：今までのお話だと、対象は児童として各学校で実施するというのいい  
とは思いますが、まずは方向として、もう一度アンケートをとるということ  
でいいんでしょうか。

委員長：ありがとうございます。まずはアンケートですが、案を2つに絞って  
もう一度実施するということでよろしいでしょうか。はい。それから、事務局  
の方に回答フォームを作っていて、できるだけ早めに、学校の方で、各  
児童に答えてもらおうと思うので、対象は児童ということで決定したいと思います。  
よろしいでしょうか。

方法は、基本的にはタブレットを使って回答しようと思いますが、低学年等で  
難しいクラスもあるかもしれませんので、方法については、学校にお任せいた  
だければと思うんですが、いかがでしょうか。はい、ありがとうございます。  
子どもたちに投げかけるお話について、事務局で案を作っていてよろし  
いですか。

それから、では実際どれを候補としてアンケートをとるかについては、2つに  
絞らなければいけないかなと思うんですが、一つは得票率から「春風台」、そ  
れともう一つの候補をひらがな「さくら」か漢字「桜」かなと思いますが、い

かがでしょうか。

委員：ひらがなのさくらと春風台にしばってアンケートを実施するのがいいかなと思います。

委員：私もひらがな” さくら” がいいかなと個人的には思います。

委員：ひらがなと漢字のさくらだと、響きというか印象が違うと思うんですね。それがきちんと伝わるかたちでアンケートを実施していただきたいと思います。

委員長：よろしいですか。そうしますと、「さくら」小学校と「春風台」小学校で、児童を対象にアンケートを実施したいと思います。そして、今回は得票数が多い方を校名に決める、ということでよろしいでしょうか。

共通の原稿をもって、一度お話をして、理由について読み上げて説明しつつ、それからアンケートを実施する、決をとるということで。はい、ではそのように進めたいと思います。

事務局：前回のアンケートでは、候補としてそれぞれの校名を挙げた理由を記載していましたので、今回も同様に理由を記載して、アンケートを実施したいと思います。

委員長：それでは、続きまして(2)校章案の決定についてに議題をうつしてよろしいでしょうか。はい、では事務局からご説明をよろしくお願いいたします。

事務局：では、資料2に基づいて校章案選定の流れについて説明いたします。

校章案の選定方法について、第2回の委員会において、デザインの公募を行い、



デザインに精通している方に校章案の制作を依頼し、アンケートを行ったうえで校章案を選定することを決めていただきました。

本日の委員会では、デザイン公募の内容を確定していただき、委員会後に公募を実施したいと考えております。

まず、今後のスケジュールですが、公募を来週の早い日にちから冬休みを挟んだ1か月程度としますと、次回第4回委員会を1月下旬に開催し、その後デザイン制作期間を1か月程度設け、3月上旬にアンケートに向けた委員会を開催し、春休み前までにアンケートを実施する、という流れを案として挙げさせていただきます。

校章案デザイン公募については、校名案の公募と同様に、対象を3校の児童、保護者、通学区域内にお住まいの方と想定した内容で、保護者宛の通知文、それぞれの応募用紙、区会回覧や掲示用のチラシをお配りしております。保護者や地域の方用の応募用紙には、制作可能な方に記載いただく欄も設けております。

児童の応募用紙は学校から配付し、保護者や地域の方には、つくば市ホームページに公募に関する情報を掲載し、そこからダウンロードいただいたものを電子申請や郵送などで御提出いただくことを考えております。

委員長：ありがとうございます。ただ今事務局から説明がありました校章案の選定について、選定方法を検討したいと思います。

まず公募の対象なんですが、こちらは校名募集と同じように対象：栗原小、栄小、九重小の児童・保護者、地域住民等というかたちでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

方法としては、子ども達には用紙を配る、保護者の方等は用紙をダウンロードしてもらって、電子申請を使って応募してもらおうというかたちですね。はい。

期間はどうでしょうか。

事務局：校名について再度アンケートを実施することになりましたので、少し後ろにずらしたいと考えています。学校の最終登校日が 12 月 24 日だと思いますので、23 日には応募用紙を学校の方にお渡しして、最終日には各クラスごとに配布していただくようお願いしたいと思います。

冬休みの期間を使って、デザインを考えていただければと思います。

委員長：ホームページへの掲載と募集用紙の案ですが、年号の書き方が異なるので、統一していただいた方がいいかなと思います。他に何かございますか。

事務局：応募用紙なんですけれども、参考となるようそれぞれの学校の校章を入れさせていただいています。何校かは校章が見つからなかったもので、後ほど送っていただければと思います。

委員長：必ず各学校あるはずなので、後ほどお送りしたいと思います。

校章の募集については、これで大丈夫でしょうか。はい、では議事(3)その他に進みたいと思います。何かございますか。

委員：はい、すみません。今日の議題とは関係ないんですが、スケジュール案について、PTA 組織について決めるのが 11 月後半くらいの予定になっているんですけど、本当にこれで間に合いますか。

今回は 3 校が一緒になって 1 つの学校になるという中で、今 3 校の組織はバラバラなので、4 月開校にはこれで間に合うと思うけど、実際その間に決めないといけないことがたくさんあるように思うんですけど…PTA を組織するのかどうか、そこからの協議になると思うので、これでは間に合わないのではないかと、ちょっと気になっています。

事務局：あくまで事務局案として提示させていただいたものなので、今おっしゃっていただいたように、間に合わないということであれば、前倒しで進めることはできるかと思います。

委員長：みなさんどうでしょう。間に合わなさそうですか。

委員：検討することが多いと思うので、できればもう少し前倒しにして、この中だけではなく、保護者組織について、市内の他の学校がどうしているか、例えばこの学校は PTA 組織がありますとか、ここはないのでこういう組織でやっていますとか、そういったことが聞ける機会があるといいなと思います。

作ったところで、参加する人がいないというのも困るので、どういう組織を作るのか、作らないのか、作った場合どのくらいの加入者が見込めるのか、そういったことをこの数か月でできるのか、ある程度この準備委員会で決めた上でアンケートをとって決めていくというのを繰り返すのであれば、4 月くらいからやらないと間に合わないように思うので、スケジュールを検討する余地はあるのかなと思います。

アンケートをとるのであれば、もちろん次年度になって新一年生が入ってからになると思うんですけど。来年度早々にアンケートをとって、進めていくのかなと思っています。

委員長：次回お集まりの時に、皆さんに御意見持ってきていただいて集約するというかたちで、どうでしょうか。

委員：今回、今出てきた PTA の組織を検討するっていうなった場合は、今度は本当に新しい学校に通う保護者が対象になると思うんですね。

まず、今この新しい学校つくるうえで、もしかすると今の学校に残るっていう方もいらっしゃると思うんですけど、最終的にどちらの学校へ通うっていうアンケートはいつごろ実施する予定でいるのでしょうか。

事務局：アンケートをいつ実施するかというのは、現段階では具体的に決定していない状況です。

委員：結局、栗原小はほとんどが新設校にいくでしょうけど、栄小と九重小は、そんなに行かないわけですね。だからもしかすると、うちの学校だと上境の地区の子が行くようにはなってるんですが、友達がいっぱいいるから新しい学校に行かないで、そのまま栄小にこのまま残りたいという方もいると思うんですね。

そうすると結局、最終的に今の学校に残る保護者にとっては、このアンケートは必要ないわけですね。PTA 組織に関するアンケートですから。だから、学校から例えばアンケート配ってくださいと言われても、こちら側で対象が把握できていない、誰に配ったらいいかがわからないので、次年度早々にアンケートを実施するというのは難しいのかなと思いますね。

ただ、今までの分離してる学校を見ると、6年生、最後の年になるっていう子に関しては、いろいろ影響もあるだろうからどっち通ってもいいですよっていうふうになっていたと思うんですね。ですから、今回もそうなるんじゃないかなと個人的には思っていたので、その確認をしたいんですけども。

事務局：たしかに、今までは最終学年に関しては、学区外の申請をすれば従来通っていた学校に残ってもいいですよというかたちにしていました。

ただ、全員が残るのかということそういうわけではなく、いわゆる学区外の申請を出したかどうかという、そこにかかってくるんですね、最終的には。

委員：いつごろ意思をお示しいただいて、さらに学区外申請を出してくださいというのは、いつになるのでしょうか。

事務局：通常ですと、新1年生等に11月末頃就学通知のはがきを郵送させていただいて、そのはがきの返送等で指定学校に行く、あるいは学区外の申請をするというのを確認しておりますので、新設校についても同じタイミングで指定学校に行くかどうかというのを確認させていただいております。それが、私たち学務課での確認のタイミングになります。

委員：それは、前回の保護者向けの説明会でもお話いただいているんですね。

事務局：そうですね、これまで新設校でもそういったかたちでやっていて、今回もそのような流れを考えていますというのをお話したところです。

委員長：そうすると、その11月までは確認のタイミングがないので、保護者の方には指定学校に通うということを前提に、ある程度機械的に、住所地に基づいて進めていくという方法になるんですかね。

事務局：そうですね。

委員長：学区外申請をするかどうか、各家庭での判断で決定するということでもんね。

委員：流星台でも、そういった方がいて、手続きについてよく聞かれることがあるんです。その時に、時期の目安とか、誰に相談したらいいか知らなかったんですといわれるのが大変だと思うので、その目安を教えてくださいたいです。

事務局：来年の11月下旬ごろに、新しい学校に行かれる御家庭には全員郵送で通知しますので、新しい学校に通うのか、学区外の申請をして残るのかを決めていただき、はがきに記載の期間内に、お手続きするようお願いするかたちになります。

委員：はがきでの通知等についても、説明会の中でお話しているのでしょうか。

事務局：そこまで詳細にご案内しているかは今わからないのですが、11月頃というのはご案内しているかと思います。

委員長：他に何かございますか。

では、本日の議事は以上となります。次回の開催日を決めていきたいと思えます。

校名の募集ですが、冬休みの宿題のようなかたちになるので、休み明けの1週間くらいね、ちょっと余裕を持っていたきたいです。声かけをして集めるのですが、学校が8日からなので、次の週までであった方がいいなと思えます。

事務局：今回校章のイラストを案として応募いただくので、それを資料として取りまとめるのにお時間をいただきたいのですが、2月に入ってしまうとデザインの制作をお願いする期間が短くなってしまいます。

委員長：それでは、次回のこの会議は1月31日16時30分栗原交流センターで開催いたします。よろしいでしょうか。

では、第3回の開校準備委員会を終わりにしたいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

3 閉会